



図書館だより

1月

NO.9

2009/01/08

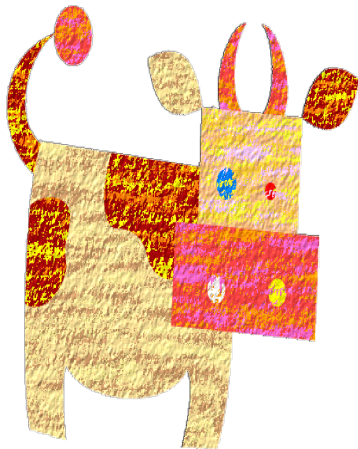
ノートルダム学院小学校図書館

あけましておめでとうございます



お正月をむかえ、新しい年が始まりました。「正月」は、中国から入ってきた言葉です。「正月」の「正」の字には、ものごとを正しくする、あらためなおすという意味があります。正月は、年があらたまって、すべてあたらしくたす月なのです。「一年の計は元 旦がんとんにあり」 みなさんは今年どんな計画・目 標もくひょうを立てましたか？この一年がすばらしい年になりますように…。今年も読書で自分をゆたかにしましょう。すてきな本との出会いがありますように。

= 今年 は 「牛」 の 年 =



お正月になると急に人気者になるのが、その年の”えと”。この、十二支の始まりは古く、今から3千年前、中国の殷（イン）の時代までさかのぼります。漢の時代になると十二支が動物の名前と結びついて、十二支が完成します。字を読める人が少なかった時代に、身近な動物を割り当てることで覚えやすくしたのです。ウシは、人間の生活にかかせない家畜かちくとして、イヌについて古い歴史を持っています。労働力として田畑をたがやしたり、牛車を引いたりしました。平治物語絵巻へいじ えまきには、ウシが牛車を引くすがたが描かれています。

ウシは、昔から神聖な動物としてあつかわれ、神話の中にも登場します。京都では北野天神の牛を知っていますね。インドではたくさん牛が街を歩いています。野生の牛も入れると、世界中にはいろいろな種類の牛がいます。家畜牛、ガウル、ガヤール、バンテン、ヤク、コーブレーの6種類。

ウシの目は人間の見え方に近く、緑や赤を見分けられるので、おいしい草の場所が分かります。ウシは草を食べない時にもモグモグしていますね。ウシには胃が4つあって、第一の胃から第二の胃に送られた草を少しずつ口にもどして、かみなおしているのです。

ことわざの本を調べてみましょう。牛のことわざがたくさんあることが分かります。人々が牛をどのように見ているかが分かっておもしろいですよ。また、牛が出てくる本を図書館でさがしてみました。他の動物とくらべると少ないですが紹介しましょう。

「牛」のことわざ

●「牛になる」おなかいっぱい食べてすぐ横になると牛になるよ。●「牛に乗ってきた」おくれたきた時に言います。●「牛の歩み」進みぐあいのおそいことのたとえです。●「牛の歩みも千里」おそい牛の足どりでも、たゆまず行けば千里の遠くまでも行けるよ。●「丑の日にしたことは長く遠くへ」丑の日に始めたことは長く続けられることです。

「牛」が出てくる本

●牛になった寝太郎（ホンソンチャン：作 汐文社）●十二支のおはなし（内田麟太郎：作 岩崎書店）●十二支のはじまり（谷真介：作 佼成出版社）●十二支のはじまり（荒井良二：作 小学館）●十二支のひみつ（大高成元他：作 小学館）●わらのうし（内田莉沙子：作 福音館書店）●子ウシをつくった母ウシ（谷真介：作 佼成出版社）●花になった子うし（こやま峰子：作 自由国民社）●うしとトッケビ（イ・サン：作 アートン）●子うしのハナベエ日記（金田喜兵衛：作 ひくまの出版）●はなのすきなうし（マンロー・リーフ：作 岩波書店）

